第３章

ディリアナ・ガイタンジエバ女史の衝撃的研究

―ロシアを標的にして、生物兵器研究と軍事作戦は果てしなく

米軍の生物兵器研究を追求しているブルガリア人記者
ディリアナ・ガイタンジエバ（Dilyana Gaytandzhieva）

1

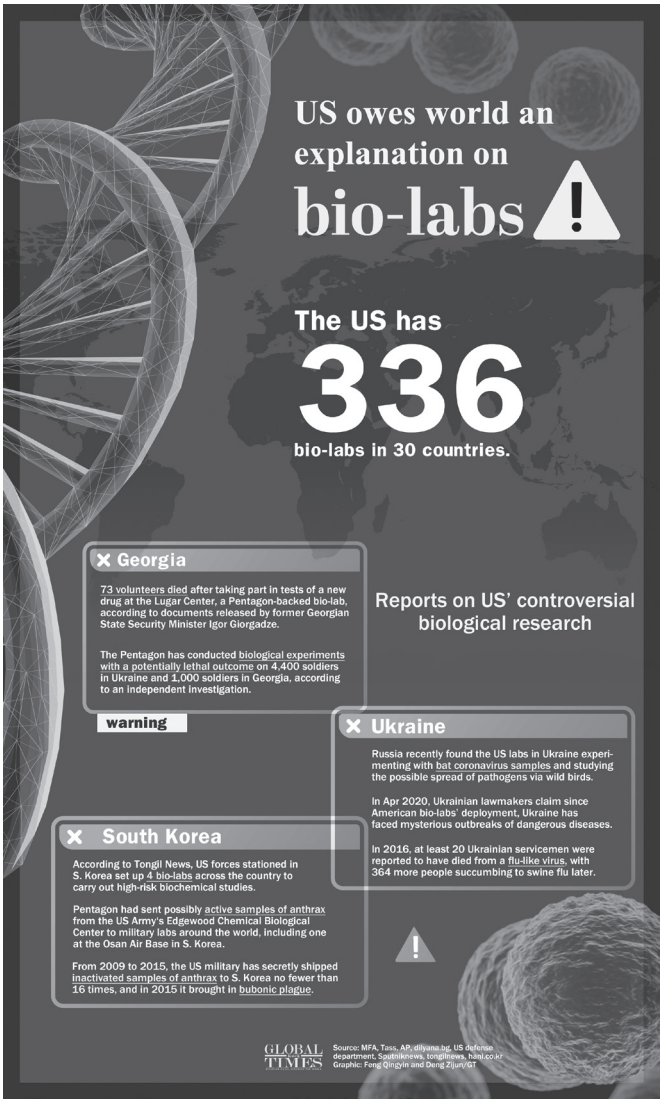
アメリカが世界中で「生物兵器の研究と開発」をおこなっているということを暴露した女性がいて、それがディリアナ・ガイタンジエバというブルガリア出身の女性記者です。

彼女が調べた結果によると、アメリカは世界中に生物兵器研究所をつくっており、その数は25カ国、ウクライナに11カ所あります。

＊ Pentagon Biological Weapons Program Never Ended: US Bio-labs Around The World
https://www.sott.net/article/375723-Pentagon-Biological-Weapons-Program-Never-Ended-US-Bio-labs-Around-The-World

この事実は二〇一八年に彼女によって書かれた右の記事によって知ったのですが、もっと最近の新しい研究では実は30カ国336カ所もあ

ることが分かりました。



https://www.globaltimes.cn/page/202203/1254588.shtml?id=11

つまり「最近の調査では、ペンタゴンの生物兵器研究所は30カ国336カ所だった。だから武漢だけではない、ウクライナ自身もこんなに生物兵器研究をしているのだ」というわけです。

ガイタンジエバの二〇一八年の研究では上の地図に示されているように、ウクライナに11カ所となっていました。が最近、実はウクライナ国内には46カ所もあったことが分かりました。

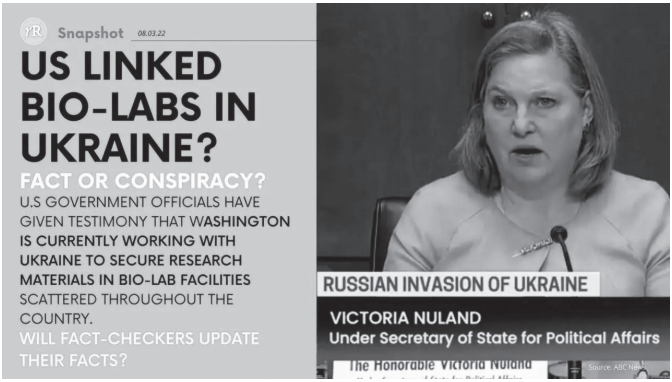
これがなぜ分かったかというと、二〇二二年二月二四日にロシア軍がウクライナに進攻したからです。世界中は、EU、NATO諸国、そして日本もそうですが、「ロシアが侵略した」と言っていますが、これは侵略ではなかったということはあとで説明します。

ロシアが二〇二二年二月二四日にウクライナに進攻したとき、まず真っ先にやったことは、ウクライナ全土にどれだけの生物兵器研究所があるかということ、その証拠物件を調べることでした。ロシアはウクライナ全土に兵士を派遣して、全部証拠を押さえたわけです。

このことは、ヌーランド国務次官もアメリカ上院の「公聴会」（三月八日）で認めて、話題を呼びました。

彼女はウクライナの生物兵器研究所について「バレないのか、大丈夫なのか」と追求されて、「いや、大丈夫じゃありません」「だけど証拠物件は没収されないように全部廃棄処分しました」と証言したのです。ヌーランド国務次官自身が、ウクライナに生物兵器研究所があるということを認めたわけです。

六月になってペンタゴン自身がウクライナに46カ所の生物兵器研究所を持っていることを初めて認めましたが、アメリカによればこれは「平和」



ヌーランド国務次官、ウクライナに米関連の研究所がある？
https://www.globalresearch.ca/us-lied-about-funding-dangerous-pathogen-research-secret-ukrainian-biolabs-newly-leaked-documents-reveal/5775095

施設であり、「公衆衛生と安全のためのもの」だということなのだそうです。

＊ Pentagon divulges number of US-funded biolabs in Ukraine（国防総省、米国が資金提供するウクライナのバイオラボの数を公表）

〈副題〉US insists 46 "peaceful" facilities were all about public health and safety（米国は46の「平和」施設はすべて公衆衛生と安全のためのものだったと主張）

https://www.rt.com/news/556902-pentagon-ukraine-biolabs-wmd/　9 Jun, 2022

2

ガイタンジエバの調べでは、ウクライナ南東部で実は二〇一六年にいろんな病気が出ています。二〇一六年、ウクライナ兵20人がインフルのようなウイルスで死亡。二〇二〇年四月、ウクライナの議員たちは、アメリカ生物兵器研究所の設立後、奇妙な危険な病気が大発生していると主張（さらに最近になってロシアは、ウクライナがコウモリを使ったコロナサンプルで病原菌散布実験をおこなっていたことを発見しました）。

つまりウクライナは一種の実験場になっているのです。なぜなら46カ所も生物兵器研究所があるのですから、どこかで必ず細菌は漏洩（ろうえい）します。アメリカ国内でも、米軍の細菌兵器研究所の周辺で事故が起きて一時閉鎖されたことがありました。

ルガール生物兵器研究所（グルジア）

さらにガイタンジエバの調べでは、グルジアにも生物兵器研究所があります。そこにルガール生物兵器研究所があるのですが、やはり事故が起きています。二〇〇三年には新薬の実験後、73人のボランティアが死亡。グルジアの元国務長官イゴール・ジョルガデスが発表した文書によるものです。

またペンタゴンは、ウクライナ兵４４００人、グルジア兵１０００人にたいして、死者の出る可能性のある生物兵器実験をおこなってきています。これもガイタンジエバの調査によるものです。

ところがこのグルジアという国は、二〇〇三年に「バラ革命」という「いわゆるカラー革命」がおこされました。これはアメリカによる政権転覆で、グルジアはこのカラー革命でアメリカ寄りになった国です。

先にも述べたように、ＣＩＡは政権転覆を謀（はか）るときには、

国内の軍部、たとえばチリで政権転覆をやったときは、チリの軍隊を使って政権転覆をさせたわけです。しかしそれは余りにも評判が悪くなりすぎてしまったので、「民衆革命」という体裁をとって政権転覆をやるようになりました。

真っ先にやられたのがグルジアで、「バラ革命」と言って民衆が手にバラの花を掲げて民衆が立ち上がったという体裁をとって政権転覆をおこないました。それがヨーロッパ全体に広がっていくわけです。それが二〇一四年のウクライナの政権転覆につながっていきました。

グルジアでひとつだけ言っておきたいのは、まだソ連という国が生きていた頃には、シュワルナーゼというグルジア出身の有名な外務大臣がいました。ソ連が崩壊したときに、このシュワルナーゼがグルジアの大統領になったのです。ところがそのシュワルナーゼを「バラ革命」で排除して、アメリカ寄りの政権をつくった。そしてこのグルジアの中にたくさんの生物兵器研究所をつくったのです。

このグルジアでもう一つ言っておきたいのは、世界一の長寿国として非常に有名な国だったことです。森下敬一（医博）という、長寿国グルジアの研究をして世界的に有名な

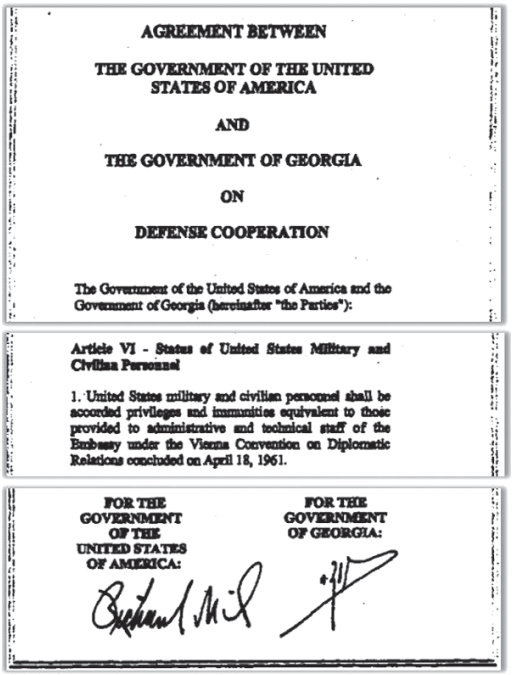
人物がいますが、グルジアはそういう意味では長寿国ナンバーワンの国でした。ところが今は、政権転覆で生物兵器実験場になってしまったわけです。

3

ガイタンジエバの調査・発掘によって下図のようなアメリカとグルジアの契約書が次々と出てきました。

アメリカ政府の請け負う民間会社には2グループがあり、ひとつはヒル&バテル社、もうひとつはメタビオタ社です。

メタビオタ社はバイデン大統領の息子ハンター・バイデンが重役として滑り込んでいた会社です。



AGREEMENT BETWEEN

THE GOVERNMENT OF THE UNITED STATES OF AMERICA

AND

THE GOVERNMENT OF GEORGIA

ON

DEFENSE COOPERATION

The Government of the United States of America and the Government of Georgia (hereinafter "the Parties"):

Article VI - Status of United States Military and Civilian Personnel

1. United States military and civilian personnel shall be accorded privileges and immunities equivalent to those provided to administrative and technical staff of the Embassy under the Vienna Convention on Diplomatic Relations concluded on April 18, 1961.

FOR THE GOVERNMENT OF THE UNITED STATES OF AMERICA:

FOR THE GOVERNMENT OF GEORGIA:

アメリカとグルジアの防衛契約書, 1961年4月18日

2011年ルガール生物兵器研究所、アンドリュー・ウィーバー
国防総省副長官・エボラ出血熱担当の国防相代理（右）

と同時に、国防総省副長官アンドリュー・ウィーバー（エボラ出血熱担当の国防相代理・写真右）も、二〇一一年にメタビオタ社の職員になっています。

またグルジアのルガール生物兵器研究所では、CIA＝バテル社との共同研究で、クリアビジョン計画（一九九七、二〇〇〇）がおこなわれ、ソ連に炭疽菌を小型爆弾で散布する実験を研究していたことが彼女の調査で明らかになりました。

それにしても、このような重大な事実が、たった一人の女性記者（しかも超美人！）によって暴露されてきたということは驚くべきことです。ただただ脱帽あるのみです。

4

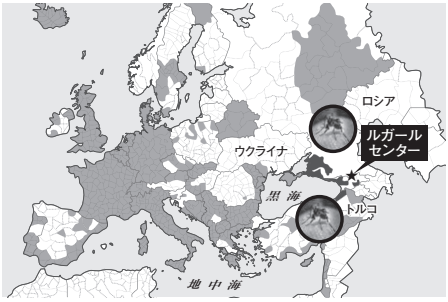
それはともかく、その研究所でどんな研究が進んで

いたのか。国防総省は「ロシアとグルジアで、昆虫（蚊）を生物兵器として使う実験」をおこなっていたのです。グルジアの首都トビリシ市では浴室に蚊の群れが発見されています。それからダゲスタンでも蚊の群れが大量に発生していました。トビリシ市もダゲスタンも、上の地図で見るとルガール研究所に近接していることが分かります。

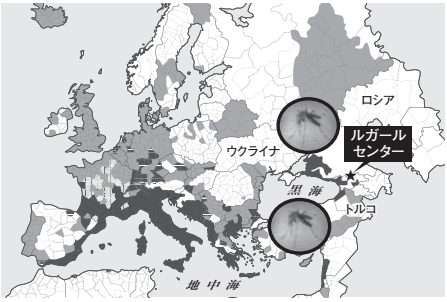
蚊の普通の生息域はフィリピンであり、グルジアやロシア（ダゲスタン）ではありません。しかもここで死者が次々と出ています。

つまり「殺人蚊」を使って、「1人29セントで62万5千人を殺す方法」という、そういう強力な毒性を持っている蚊の研究がおこなわれていたのです。

熱帯縞蚊のロシアとトルコにおける分布図



ヒトスジ縞蚊のロシアとトルコにおける分布図



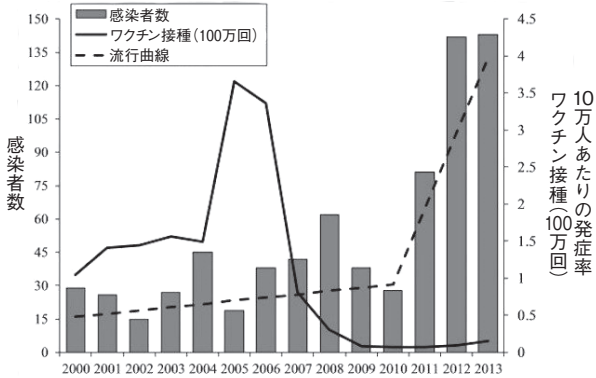
そして事実、グルジア全土で集めた蚊をルガール生物兵器研究所で実験をおこなっていました。蚊はさまざまな病原菌を媒介することができます。黄熱病、デング熱、ジカ熱などを引き起こします。

「ヒトスジ縞蚊」はもともとグルジアにいなかった蚊ですが、これがロシアやトルコで発見されています。また「熱帯縞蚊」は二〇一四年のペンタゴン計画のあと、グルジア、南ロシア、北トルコに広がりました。

熱帯縞蚊なのですから、こんな寒い地域に出るわけがないものです。つまり、遺伝子組み換えか何かで新しい細菌をつくり出したのです。炭疽菌もそうです。

米軍が「炭疽菌」を兵器とした例では、二〇一三年グルジアのルガール生物兵器研究所で炭疽菌ワクチンの臨床試験（すなわちワクチン接種）を開始しました。

実を言うと、グルジアでは以前からずっと炭疽菌が研究され



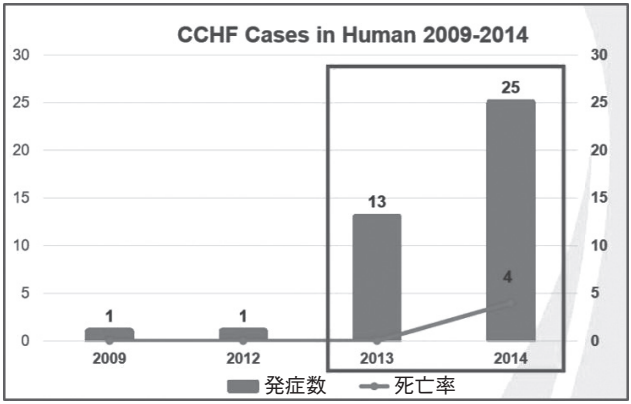
炭疽病の大流行とワクチン接種の動向

ていて、実際にそれが漏れて二〇〇七年には炭疽病が大流行していました。それなのにグルジアは二〇一三年までの7年間、炭疽菌ワクチンの接種をおこなおうとはしませんでした。

そしてやっと、二〇一三年に、炭疽菌ワクチンが始まったのです。ワクチンの威力を証明するために、それまで7年間ワクチン接種を中止していたのでしょうか。

いずれにしても、こうしてたくさんのひとが死んだわけです。グルジアはまれにみる長寿国だったにもかかわらず、今はこんな状態です。

このようなことを考えると、アメリカがグルジアで二〇〇三年に「バラ革命」という名のクーデターを成功させたのは、グルジアを「生物兵器の実験場」として使いたかったからではなかったか、と疑いたくなるのです。



クリミア・コンゴ出血熱のグルジアでの発症数と死者数

5

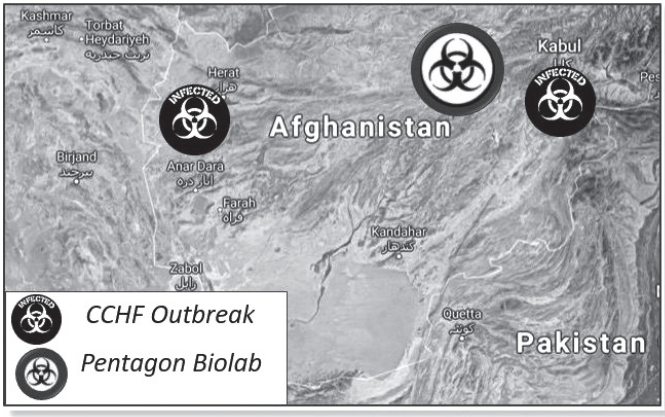
米軍が「炭疽菌（たんそ）」を兵器とした例をもうひとつ紹介します。

ガイタンジエバの先述の調査によれば、二〇一六年、ペンタゴンはグルジアのトビリシ市で、特にロシア人のゲノム配列を集め、炭疽病を感染させやすくする方法を研究していました。バイデンの息子が重役のひとりになっていたメタビオタ社が運営し、ＤＴＲＡ（アメリカ国防脅威削減局）が資金提供をしていました。

つまり、どうやったらロシア人を炭疽病に罹りやすくすることができるか、あるいはロシア人だけに罹る病原菌をつくることができるかという蚊の研究をするわけです。そういう研究も進んでいたわけです。

米軍が「クリミア・コンゴ出血熱（CCHF）」を兵器とした例では、グルジアで34人が故意に感染させられています。これもＤＴＲＡ（アメリカ国防脅威削減局）計画によるものでした。

グルジアでの発症数は、それまで1人だったのに二〇一三年には13人、二〇一四年には25人に膨れ上がっています。（前頁のグラフ）



アフガニスタンにある米軍の生物兵器研究所と
クリミア・コンゴ出血熱の勃発

この「クリミア・コンゴ出血熱（CCHF）」という変な名前ですが、ガイタンジエバの調査によれば、人種別にどうやったら感染させやすくできるか、という研究をするために、二〇一六年にはルガール生物兵器研究所で、研究用に2万匹のダニのDNAを収集しています。

また米軍はアフガンでも実験をおこない、二〇一〇年には3件しかなかったのに、二〇一七年には237件も症例が発生しています。アフガンにも国防総省の生物兵器研究所があるのです（上の地図）。カブールに研究所があり、先のクリミア・コンゴ出血熱はそのすぐ近郊でアウトブレイク（病気の勃発）が起きています。